

< 今日の説教のポイント ルカによる福音書 10 章 17～24 節 >

1 ルカだけが記し残した記事。福音書記者ルカが伝えたいことは何か？

12 弟子の宣教派遣はマタイ、マルコ、ルカが記していますが、72 人の弟子たちの宣教派遣はルカだけが記している記事です。当然、それが成功したとの弟子たちの報告とそれに対するイエス様の反応は、ルカ福音書のここだけの記事です。よってここからは、ルカが私たちに何を伝えようとしたかを聞き取ることが重要です。

2 (17-20) 喜ぶ弟子たちへの注意。力を持ったことを喜ぶなかれ。

ルカが特に取り上げたのは、弟子たちが「**イエス様の名前を使うと悪霊さえも自分たちに屈服します**」(17)と語った点です。この背景には、ある人の名前によって派遣された使者はその名前の人**の**権威が託されている、と考えられていたことがあります。ですからルカは、あなたがた自身が何か力を持ったかのように高ぶるのではなく、むしろイエス様の権威をしっかりと覚えよ、と言っているのです。20 節は 17 節の弟子たちの言葉に対する忠告として理解できるのですが、その間の 18-19 節でイエス様が語られている内容は私たちの理解を超えています。しかし実は、その「理解できない」ということが大事なのです。なぜなら、語られている内容は全能の神を示す内容だから私たちには理解できないのであり、イエス・キリストはまさにそのような方 (全能の神) だからです。この私たちには不思議千万なことが次の所で理解できるように語られています。

3 (21-24) 父なる神と子なるイエスと私たちの関係。驚きの福音の内容!

イエス様は「**聖霊によって喜びにあふれて**」(21)父なる神様に祈られます。神様のことを父と呼ぶことは旧約にもユダヤ教にも見られないことで、イエス様だけです。ですから、「父のほか**に**、子が**ど**ういう者であるかを知る者はなく、父が**ど**ういう方であるかを知る者は、子と、子が示 そう**思**う者のほか**に**は、だれも**い**ません」(22)、はととても重要な表現なのです。カール・バルトは、「人間の方から神を理解できる道はない。しかし、神が人間にご自身を理解できる道を開いて下さったら、その道においてのみ人間は神を理解できる。それがイエス・キリストという道だ」と語りました。すなわち、神を見ずして生きる人間 (罪の原意) を裁かず、御子の死によってその罪を赦し、再び神の方を向いて生きる者にして下さる (悔い改めるの原意) 神の愛の業を実行し、聖霊によってこれを理解さ